

誰もがそれぞれに心地良く関われるPTA活動をめざして ～PTA会長4名による座談会～

戦後まもなく全国津々浦々に設置されたPTAも 70 年以上の時間が経ち、時代や社会環境の変化とともに保護者の意識、考え方も多様化してきました。中にはPTA不要論のような意見もあります。しかし、子どもたちのため、学校のため、そして何より保護者の学びのためにPTAの果たす使命はまだまだ終わっていません。

負担感や不平不満を減らし、誰もがそれぞれに気持ち良く心地良く関わることができるPTAをめざして、今回4名のPTA会長(前会長含む)に集ってもらい、PTAに対する思いを語り合う座談会を開催しました。

ぜひご一読ください。

座談会メンバー

小林 慶さん (有明小PTA会長 令和元年度区小P連合会会長)

関口 朗太さん(大島中前PTA会長 令和元年度区中P連合会会長)

古賀 譲治さん(南砂小PTA会長 令和2年度区小P連合会会長)

本田 和恵さん(東陽中PTA会長 令和2年度区中P連合会会長)

進行:教育委員会事務局地域教育課 田中



～座談会の様子～

(文中敬称略)

一まず、皆さんがPTA会長として大切にしていることからお話しいただけますかー

小林» 子どもたちと学校と保護者の力になりたいと思うマインドです。愛と情熱を持って、保護者代表として自分が力を尽くせることを提案していきたいです。そのためには、常に情報収集のアンテナを張り、前向きに考え続けることを心掛けています。そうすることで、子どもたちに新たな気づきを与えることができると思います。

関口» 「子どもたちのために何ができるか」はもちろんベースにありますが、例えば「いつのまにか役員に決まっちゃった」とか、会員からのいろんな意見を聞くように

心がけていました。本部役員の方と1時間半くらい電話したこともあります。そういうことが保護者全体へのフォローにつながってくるなと思いました。あとは、自分自身会長をやって父親としてたくさん気づきがあったので、おやじの会を通して、PTA活動にお父さんを引き込むようにもしていました。

古賀» PTAの本部業務が、行事を「やる」ことが目的化してしまっているのでは、そうではなくて「誰のため」に、「何のため」にやっているのかを一つ一つ点検・手直しして効率化させることを一番気を付けています。そうすることで、以前よりも自然と保護者が集まってきたように思います。あとは多様性。PTAは専業主婦の方が中心というイメージがあると思いますが、今は働いているお母さん・お父さんなど、いろんなタイプの方がいます。南砂小でも、男性をいかにPTAに引き込むかに力を入れています。結果的に男性のほうが多くなってしまったのでアンバランスなのですが…(笑)。

本田» 大切にしていることは「あくまでもPTA会長は保護者の代表」というスタンスを保つこと。“長”＝「偉い



小林 慶さん

#2 児のパパ
(小1・小4)

#PTA 役員歴 4年



ギター
始めました♪

関口朗太さん

#中2女子のパパ
#PTA 役員歴 4年

人」というイメージが強く、「会長が言ったらもう決まり」という感じになりがち。会長になってすぐに「PTAには上下関係はない」というような手紙を書いたんです。本部のなかでは「あだ名をつけて呼び合う」「敬語はなし」というルール(?)を作りました。コミュニケーションを積極的に行うようにしています。

—学校との距離感で留意していることはありますか—

小林>> 保護者の中には学校に対して強い意見を言う方もいますが、それを校長・副校長がダイレクトに受けている負担をなんとか軽くしたいね、というのは話しています。そのために全校アンケートをとって、問題点をどう解決できるかを模索したことはあります。ダイレクトにそのままの言い方ではなくて、保護者の気持ちを咀嚼して、意思疎通できるように言葉を変えて学校に伝えています。

—昨今のPTA不要論に対してどう感じていますか—

小林>> 残念です。そもそもPTAは嫌々やるものではなくて、子どもたちの教育環境を学校と家庭が連携してよりよくしていこう、と議論、具現化していく組織であると考えています。そのPTAがいない、というのは学校のことは学校に丸投げ、家庭のことは家庭でやります、ということ。PTA要・不要ではなく、子どもに対して何ができるかを純粋に考えるだけでいいかなと思っています。そのやりたい気持ちをできるときにできる人ができる範囲で行動に変える、本当に背伸びしない。まあ会長と会計はちょっとタフな部分もありますけど、それ以外の方はちょっとだけでもいいので、楽しく取り組むという考え方

をもって活動していけたらいいなと思っています。忙しくてできないという人もいますが、ちょっと朝、通勤するときに学校の近くを通る、それだけでも十分PTA活動のこどもの見守りにつながりますよ!

関口>> ボランティアという意味で、子どもたちのためにやるPTA活動は意味のある事です。ただ、「PTAはいいですか」と聞かれたら、僕は「いない」と言います。PTA活動をする中で「これって何のためにやってるんだっけ?」という、振り返りとPDCAができてないがゆえに、目的が分からなくなっている。振り返ればいいのだけど、PTAの難点は「1年で代わってしまうこと」ですよね。次にどうすればいいのか、なかなかうまく転換できない。

PTAはあったほうが良いと思うし、なかったら何かと困ることはあると思うけど、今みたいに「旗振り当番やらなきゃ…」という発想なら、いないと思います。

古賀>> 保護者の、子どもへの関わりは多種多様化してきているので、必ずしも「PTA」という組織である必要はないと思う。ただ、個が集まるメリットもたくさんあります。関口さんがおっしゃっていた通り、PTAが変わらないと、不要論は射たままになってしまうと思います。

あとは、何かと地域との関わりが多すぎるのが弱点。確かにとても地域にお世話になっているけど、そこにとっても遠慮するというか…もっと自由にできる雰囲気を持たせないとPTAに人は集まらないと思います。

本田>> 下町や歴史の長い学校であればあるほどそういうのは強いよね。考え方はみんなと一緒に、PTAを本部役員や委員会であるという認識が強いからいないとなっちゃうんですね。

“多様性”を
大切にしています



古賀譲治さん

#小6女子のパパ
#PTA 役員歴 4年



ベランダ焼肉にハマってます!

本田和恵さん

#中2男子のママ
#PTA 役員歴 6年

だから、「できることをできるときに できる人ができることを」協力しあえる雰囲気が保護者の中にあれば、組織である必要はないかもしれない。そういう意味で不要と思われるかもしれない。「働かされる」というイメージが消えない限り、不要論はなくならないと思います。

予定がある、こどもが小さいというような理由があるのに、それを言い出せない雰囲気があるのは確かですね。なので、東陽中では募集の段階で事情があってできない人は言ってもらって、委員会やお手伝いから外すようにしています。無理やりやらせるのは意味がないです。
—それに対して、反発はありませんか？

本田>> ないです。私が思うに、丁寧に説明していれば理解してくれます。去年から入学説明会で PTA について説明をするようにしました。それまでは入学式の日いきなり役員決めという形だったので、それじゃだめだよねって。そしたら説明会では質問もたくさんきました。(東陽中では原則、1度は在籍中に役員をやることになっているため。)「早くやったほうがいいんですか?」というのが多かったけど、「友達と一緒にだったらやっちゃえば!」と答えたら、「そうですね!」なんて返ってきて。そんなに嫌な雰囲気ではなかったです。

関口>> 人によって学校との距離感って全然違うんですよ。ソフトボール部に入っていて、学校は敷居低いと思っている人もいれば、いろんな事情で関わらないようにしている人もいます。だけど、そういう人でも、例えば、運動会のちょっとしたお手伝いやってくださって言えば、やってくれたりするんですよ。

—会員から直接不満を受けたことがありますか?

本田>> 事前に直接説明していればないですが、転入

生にありました。知らないうちに入らされた。なので、私が直接説明したら、すんなり入ってくれました。「知らない間に」とか、「半強制的に」とかが**だめ**ですね。

小林>> 「加入は任意です。加入する方が多いので、加入しない人は届けを提出してください」としています。今年は数年分ぶりに(加入しない届が)1名でした。個別にお話しましたが…

関口>> 入らない人に、なんでなのか理由を聞きたいんですけどって尋ねたけど、断られちゃったんだよね。

本田>> うちの PTA 非入会届って紙で出してきたかたがいました。活動に否定的な訳ではないので、無理に追うようなことはしません。必ず事情があると思うので。

—最後にPTA活動をしてきて良かったことを教えてください—

小林>> 良かったことは、こども・保護者・学校のためになる活動ができたというところです。例えば、運動会の時にこどもの熱中症対策用にテントを近隣校から借りる予定だったのが無理になってしまい、急遽2トントラックで亀戸にある江東区青少年交流プラザから借りて、設営しました。



また、「有明パワーズ」という会を立ち上げました。力仕事や、土曜日に、サッカーが得意なパパが教えたり、夏は水鉄砲大会をやったり、そういったこども向けの活動をパパが中心になってやっています。

あと、有明小 PTA は LINE の配信をしています。学校からのお便りがランドセルの底に蛇腹折りに残っていて見ていないという声がお母さんからあったとか。だったら、LINE で配信してしまおうと。すごく助かったといってもらえて、ためになる活動ができたことがとても良かったです。

特に会長になって良かったことは他校の人たちとのつながりができたということです。いろんな人と接することになり、個が集まるので、新しい発想・気づきが生まれる。これは家族にとっても、学校にとっても、いろんな気

づきが生まれて、人生がより豊かになったのではないかなと思います。

最後、今後の抱負になりますが、私は「PTA」を「PTCA」(C=コミュニティ)と言っていて、地域も巻き込んだ社会・組織を作っていけたら、と思っています。有明という街が新しいので、まちづくりにも貢献していきたい。そうすることによって、学校教育・家庭教育・社会教育のレベルアップができるのではないかと考えているので、今後もそういう活動を続けていきたいです。

関口 父親としてPTAをやっていなかったら、いろいろな状況が分からないまま、学校にお任せにしてしまっていたと思うので、学校の状況がよく分かって良かった。そこで自分の理解の幅も広がったので、子どもに対してちょっと一歩引いた感じで接することができるようになったと思います。PTAをより良くしようと、みんな一生懸命やっているのに、どうしてネガティブに捉えられちゃうんだろうって思ってしまいます。根本的に小さいところから取り組みたいです。

古賀 仕事していると同じような考えを持った人だけになりがちだが、PTAに入っていると、全然違う世界・業界の人と話して、新たな考え方を得られる。社会人と

しての幅が広がったと思います。学校も広報活動がなかなかうまくいかないことも多いですけど、PTAもまだまだ。いいことをやっているけれど、それをうまく発信できていないと思う。そこを課題=抱負としたい。広報紙だけじゃ足りないです。

本田 まず一つめは、学校公開では見られない本当の姿が見られること。例えば、僅かな空き時間に連絡帳の記入をしていたり、廊下に寝転がっている子の対応をしていたり…そんな先生の苦労も含めた本当の学校の姿が見える。そういうのを見ると、何か私もしてあげたいという意識が芽生えます。

もう一つは、「会長さん!」と子どもたちが声をかけてくれること。そして、保護者、地域のご長寿さん、教育委員会や区など、普段は話せなかった人たちとの交流ができるようになったことです。これからもいろんな人と交流をもって楽しく活動していけたらいいなと思います。

—皆さん、本日はどうもありがとうございました—

(この座談会は、令和2年8月28日(金)に開催しました)

区立小学校PTA連合会・区立中学校PTA連合会 合同事業

OPTA基礎研修会 (PTA広報紙コンクール表彰式も開催)

主に初めて役員・委員になった方を対象に、広報や会計、今後のPTAのあり方などをテーマに分科会ごとに学習していく。例年6月第2土曜日に開催(令和2年度はコロナの関係で、10月3日にオンラインにて開催した)。

OPTA広報紙研修会

広報委員を対象に、既に作成した広報紙の講評を講師より受けながら、さらなる充実をめざす。例年10月第1土曜日に開催(令和2年度は中止)。

OPTA広報紙コンクール

当該年度発行した広報紙自信作1点を提出する。例年3月が応募期間。5月の審査会にて、区長賞、教育委員会賞、企画賞などの入賞校を決定する。入賞作品の展示を区内数か所で実施している。



〔編集・発行〕区立小学校PTA連合会・区立中学校PTA連合会・江東区教育委員会

令和2年10月発行